

はやはや

Fukui Red Cross Hospital

福井赤十字病院広報誌

vol.026

実際に手術を行う部屋の中で、医療チームが手術前の確認作業(タイムアウト)を行います。



1



入院した時に着けるリストバンドで、本人確認を行います。



2



4

タイムアウト確認終了後に、手術が開始されます。(内視鏡手術の写真です)

患者参加型の タイムアウトを心がけて。

写真は、手術を行う医療チーム(医師、麻酔科医、看護師、臨床工学技士など)が一齊に手を止めてタイムアウト(手術前の確認作業)を行っている様子です。タイムアウトでは「患者さんの氏名」「どのような手術を行うのか」、「手術部位の確認」を行います。

さらに平成20年からはより安全性を向上させるために、患者さまも参加してのタイムアウトを実施しています。患者さまからは、「患者も参加して確認作業が必要」とのご意見が多く、「安全」を求める意識の高さが改めてうかがえます。

またタイムアウトに参加することで、「安心できた」「自分も手術に参加していると思えた」「医療者に信頼感が持てた」という声を頂いています。

福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針

- 患者様の権利と意見を尊重し、相互理解に基づく医療を行います。
- 患者様に優しい医療を提供します。
- 医療の安全と質の向上に努めます。
- 地域の保健・福祉・医療機関と連携を進めます。
- 救急医療を充実させ、地域の急性期医療を担います。
- 災害時に積極的な医療救援や救援活動を行います。



頼むきずな 地域とともに



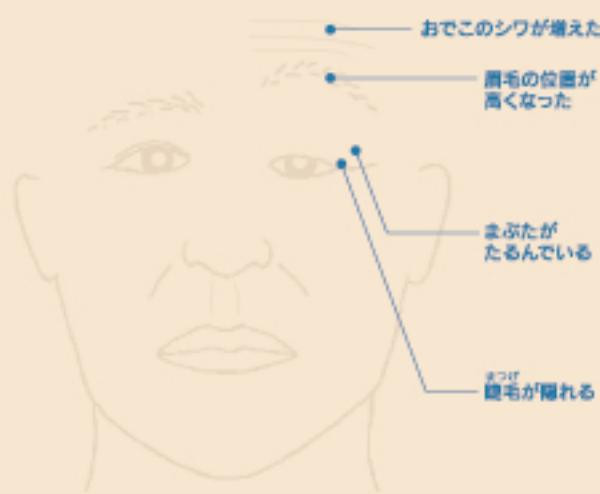
日本医療品質機構



疲れているだけじゃないかも？ まぶたのたるみは、病の前兆。

閉じたり開いたり、瞬きのたびに忙しいまぶた。
自分のまぶたをじっくり観察してみましょう。

原因は老化だけじゃない！若い人も注意を。



まぶたがたるんでくるのは、多くは老化現象により生じるものですが、これを放っておくと、頭痛、肩こり、不眠やうつまでも引き起こすことがあります。

このまぶたのたるみは眼瞼下垂といい、主として筋肉の力が低下して生じます。また、皮膚だけがたるんでいる場合は、眼瞼下

皮膚弛緩症^{（ひづくせんじゆうじょう）}ということもあります。

眼瞼下垂は、上の方が見えにくい・暗いという自覚症状だけではなく、ひたにシワが多い・眉毛がいつも吊り上っているなど

で判断される事もあります。これは、眼瞼下垂により狭くなつた視野を、眉毛を上げる筋肉を利用してまぶたの皮膚を引き上げて確保しようとするとするからなのです。

その力により代償さ

れている間は、あまり自覚症状はありません。しかしこの筋肉を緊張させておくための労力が肩こりなどの症状の元になります。

眼瞼下垂の治療は、手術でまぶたを持ち上げる筋肉、あるいはまぶたの皮膚のたるみを短縮します。頭痛・肩こ

りなどの治療がこの治療に直結するわけでは決してありませんが、原因が眼瞼下垂にある場合は、手術からすぐに症状が和らぐ事も期待できます。

また、眼瞼下垂は老化現象だけが原因ではなく、若い人でもコンタクトレンズの使用や化粧など、まぶたをこすることが多いと緩んでくる可能性があります。また、生まれながらに筋肉の働きが弱くて発症する事もあります。

手術ではまぶたに操作を加えるため、顔の印象が変わってしまうことがあります。形成外科ではなるべく他人から違和感を持たれないように配慮した手術計画を立てていますが、美容手術の跡と誤解されるような変化を伴う場合もありますので、治療内容について医師とよく相談するようにして下さい。



形成外科 部長
益岡 弘

もつとクロス 赤十字フェスティバル

もつとクロス 赤十字フェスティバル

- 測定・相談コーナー ○展示コーナー
- 救急法などの体験コーナー
8日(金)9:00~16:00、9日(土)9:00~14:00
- 市民公開講座
9日(土)10:00~11:30
会場／3階講堂にて 講師／田邊 敏 救急部長
- 焼き出し・模擬店コーナー
8日(金)、9日(土)11:00~

*そのほかにも色々なコーナーが有りますのでぜひお越し下さい。



「日赤って?」「どんな団体なの?」
日赤の愛称などでおなじみの日本赤十字社。しかし意外と、赤十字のことを知らない方が多いと思います。
そこで赤十字のなりたちと活動の内容をもつとみなさんに知つていただきたい」とイベント「赤十字フェスティバル」を企画しました。

開催は5月8日(金)、9日(土)、主催は日本赤十字社福井県支部、福井赤十字病院・福井県赤十字血液センターの3施設です。

展示コーナーはもちろん、昨年まで看護週間のイベントとして好評いだ正在いる測定コーナーや健康相談、健康体操も実施。また当院医師が講師となる市民公開講座もあります。

そのほか、地域住民の方が参加しての漫才や落語の披露や、赤十字奉仕団による救護食コーナー、お子さんに入気のキャラメルポップコーンコーナーもあり、皆さまに楽しんでいただこうと現在、準備中です。



地域がん診療研修会が 開催されました。

3月6日(金)、名古屋大学の明智龍雄先生が、「緩和ケアにおける精神的ケアのエッセンス」というテーマで講演され、医師・看護師などががん患者の緩和ケアについて学びました。がんを告知された患者さんや家族の、精神的つらさや体のつらさについて、より深く考える機会となりました。

医療安全への取り組み No.2 医療安全推進活動

安心・安全な 病院のために

入院、外来での輸血や手術の際には、リストバンドを装着して本人確認を徹底しています。

名前の確認をしています。病院内には、同姓や似た名前の方が多い場合、色んなタイミングで、何度も確認しているうちに間違いがある場合、気付くことがであります。



電子カルテシステムでバーコード認証を行い、OKが出たら認証完了!





Topics



訪問看護ステーションが、開設10周年を迎えました。

福井赤十字病院では、平成7年4月に訪問看護ステーションの前進である「訪問看護室」が活動を開始いたしました。当初は看護師2名からのスタートでしたが、平成11年4月に訪問看護ステーション事業所として独立。現在は総勢7名で活動しております。保険制度の改革や地域の情勢の変化に伴い、業務の整理や再編を行いながら、常に、"病気があつても住み慣れた我が家で暮らしたい"という皆様の気持ちを大切に"寄り添う看護"をこの10年で460名のご利用者とそのご家族に提供してまいりました。



現在、本館2階「地域医療支援センター」を活動拠点に、居宅介護支援事業所、地域連携医療課、医療社会事業課と密接な連携を取りながら活動を続けております。これもひとえに地域の皆さまの多大なご理解とご支援の賜と深く感謝申し上げます。

「自宅で暮らしたいけど自信がない」「介護をしてあげたいけどどうしていいかわからない」「介護の制度がわからない」などでお困りではありませんか？お気軽に地域医療支援センターにお越しください。

"一人ひとりを大切にし、その人らしく生活ができるように支援すること"を理念とし、これからも活動していきたいと考えております。今後ともよろしくお願いします。

栄養課
おすすめ！

春のレシピ アスパラガスとわかめのおかか和え

①わかめは水に浸けて戻して切り、熱湯にくぐらせる。②アスパラガスはさっと茹でて食べやすい長さに切る。③竹輪、生姜を切る。④材料とかつおぶしとめんつゆを和え、生姜を添える。

春は新陳代謝が活発になる季節です。この時期に旬を迎えるアスパラガスには、新陳代謝に必要な栄養素であるアスパラギン酸（アミノ酸の一種）やビタミンB1が多く含まれます。また収穫時期が同じく春の若芽は、ミネラルが豊富です。このように春野菜には冬に蓄えていた必要なものを排出し、体を覚めさせたり頭子を整えたりする効果があるといわれています。これから季節、献立に春野菜の一品を追加していかがですか。



材料(2人分)／
グリーンアスパラガス
1束、乾燥わかめ 5g、
焼き竹輪 2本、生姜 少々、
かつおぶし 2g、めんつ
ゆ 小さじ1

●1人分

| | |
|---------|---------|
| エネルギー | …52Kcal |
| たんぱく質 | …5.8g |
| 脂質 | …0.7g |
| 炭水化物 | …7.0g |
| ビタミンB1 | …0.11mg |
| 食物繊維 | …1.7g |
| アスパラギン酸 | …731mg |
| 塩分 | …1.1g |

新人看護師奮闘中！

看護師国家試験に合格した21名が新たに当院の看護師となりました。

今年度より7月3日までの間は研修として、配属された病棟を含め13カ所でのローテーション研修を行っていきます。研修の間は右記のわかば色の名札を着用します。看護師としてはまだ“わかば”ですが、患者の皆さんよろしくお願いします。



看護部(看護師、研修生)

Nisseki

日赤 花子

福井赤十字病院

福井赤十字病院

〒918-8501
福井県福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630(代)
FAX.0776-36-4133
E-mail
webmaster@fukui-med.jc.or.jp
<http://www.fukui-med.jc.or.jp>
広報に関するご意見、ご感想をお待ちしています。

ほやほや

“ほやほや”と納得できる情報、できたて“ほやほや”的情報をみなさまに提供していく季刊発行の院内情報誌です。院内の広報委員会のスタッフで毎回その季節に合った特集を組み、お役に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め誌面を制作しています。